

群 教 セ	G06 - 05
	令5.284集
	外国語一小

言葉の豊かさに気付き、楽しみながら 外国語の表現に慣れ親しむ児童の育成

——外国語への興味・関心を高める帯活動と、
児童が話したくなるテーマを設定したやり取りの活動を通して——

特別研修員 須永 敏光

I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成29年7月）では、小学校外国語活動において「自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地」や「相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うことが求められている。また、令和5年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）では、「実生活と関連付けた目的、場面、状況を意識し、既習事項を駆使しながら自分の思いや考えなどを伝え合う言語活動を設定する」ことが、外国語活動の重点として挙げられている。

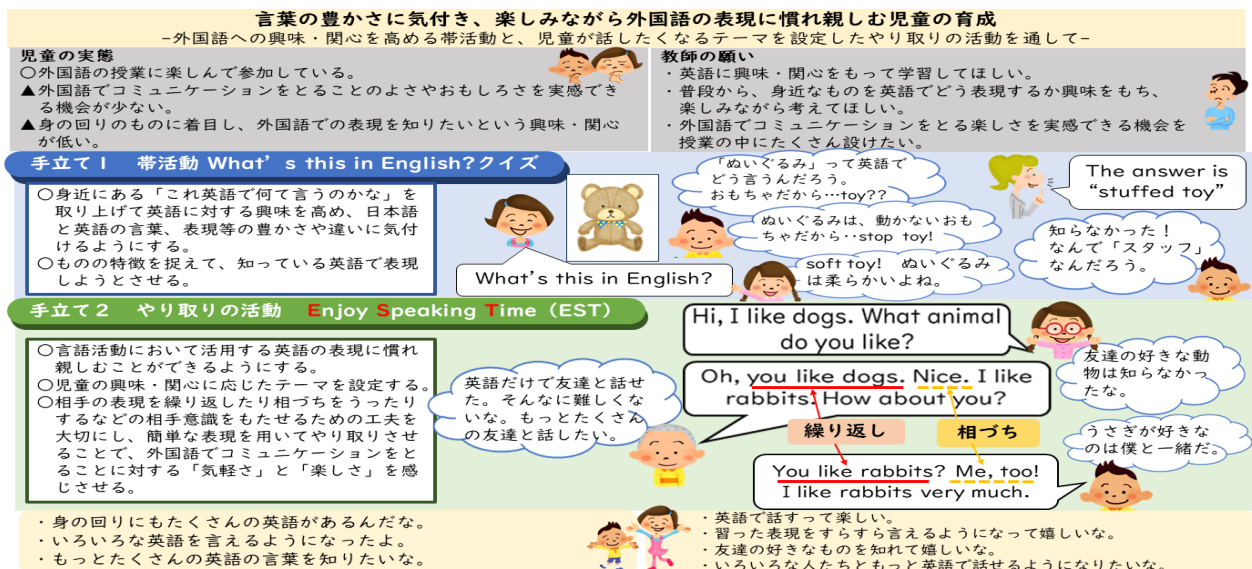
研究協力校の児童は、外国語活動の授業に意欲的に取り組んでいるが、外国語でコミュニケーションをとることのよさなどを実感する機会が少なく、外国語での表現を知りたいという興味・関心が低い。

そこで、本研究では、日本語と外国語の言葉、表現などの豊かさや違いに気付き、相手意識をもって楽しみながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、「What's this in English?クイズ（以下、クイズ）」と「Enjoy Speaking Time（以下、EST）」を取り入れる。クイズは、身近にありながら英語での表現が分からないものを教師や児童が普段から見付けておき、授業の導入時にクイズに出す活動である。ESTは単元終末の言語活動で用いる表現に慣れ親しむとともに英語によるコミュニケーションを「気軽に」「楽しく」行えるようになることを目的にやり取りを行う短時間の活動である。これらの活動に継続的に取り組ませることで、英語に親しみをもち、授業での言語活動により意欲的に取り組む態度を育てることができると考える。

以上のことから、外国語への興味・関心を高める活動の工夫を通して、言葉の豊かさに気付き楽しみながら外国語の表現に慣れ親しむ児童を育成したいと考え、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

児童が言葉の豊かさに気付き、楽しみながら外国語の表現に慣れ親しむためには、普段から多くの外国語の言葉や表現に触れ、「英語で何て言うのだろう」と考える習慣を身に付けたり、英語による意味のあるコミュニケーションのやり取りを継続的に行ったりすることが有効であると考えられる。

手立て1 What's this in English? クイズ

身の回りにあるものや、季節や学校行事に関わるものなど、「英語で何て言うのかな」と児童が疑問に感じるものを授業や朝の会などで取り上げてクイズとして出題する。児童は、そのものの特徴を捉えて知っている英語で表現したり教師からのヒントを基に答えを推測したりする。クイズで取り上げた表現は、巨大ビンゴシートのピースとして教室に掲示することで、表現の蓄積を可視化したり、言葉に対する児童の興味や関心を更に高めたりする。

手立て2 Enjoy Speaking Time (EST)

Enjoy Speaking Timeは、英語によるやり取りの楽しさを味わい、単元で扱う英語表現に慣れ親しむことを目的とした。具体的には、教師とALTの簡単なやり取りを聞き、それを基に友達と英語でやり取りをする、というサイクルをコンパクトにパッケージングしたものである。単元終末の言語活動で扱う表現を何度も活用することを重視して活動を設定することで、児童が英語表現に十分に慣れ親しめるようにする。加えて、児童の興味・関心を高めるテーマを設定することで「慣れ親しんだ表現を使って伝えたい」という意欲を高め、英語によるコミュニケーションを「気軽に」「楽しく」行うことができるようにする。

III 研究のまとめ

1 成果

- 学級でクイズを披露することを楽しみに、身近でありながら英語での表現を知らないものを、多くの児童が考えてくるようになってきている。クイズに答える際は、出題されたものの特徴を捉え、知っている英語を駆使しながら答えを表現したり推測しようとしたりする児童の姿が見られた。また、日本語と英語の言葉や表現の違いのおもしろさに気付き、自分が知っている語彙を使ってなんとか表現しようとすることに楽しさを感じていた。この姿勢が将来的に、自分の知っている言葉で英文を言い換えるパラフレーズの力につながることを期待したい。
- ESTでは、既習表現や単元終末の言語活動で使用する表現を繰り返し使い、慣れ親しむことで、自信をもって言語活動に取り組むことができるようになった。活動中は、相手の言ったことを繰り返したり相づちをうったりしながら、相手意識をもって活動に取り組む姿が見られた。学習した表現に慣れ親しみ、相手意識をもってやり取りを行うことを通して、「気軽に」「楽しく」言語活動に取り組むことができていた。

2 課題

- 英語の語彙が少ない中で、英語による答えを推測させることの困難さがある。まずは、ものの特徴を捉えさせ、日本語で推測をさせてから、知っている簡単な英語に変換させるなどの支援が必要である。また、クイズを考えてくる児童が固定化されているため、保護者と共にクイズの作成に取り組んでもらうなど、全員が進んで取り組むことができるような工夫が必要である。
- 言語活動が単なる表現のパターン練習にならないように、単元の目標に合ったテーマ設定を更に工夫し、児童に話したいと思わせることが必要である。また、より相手意識をもって取り組むことができるよう、ジェスチャーやアイコンタクト、表情などの非言語コミュニケーションの導入や習熟を図っていくことも必要である。

実践例

1 単元名 「Unit5 What do you like?」（第3学年・2学期）

2 本単元について

本単元は、小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成29年7月）の内容〔思考力、判断力、表現力等〕（2）「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」の指導内容「身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。」に基づいて設定した。

本単元の学習を通して、児童は“What ~ do you like?”を使って、既習表現である“Do you like ~?”よりも幅のある尋ね方ができるようになることで、コミュニケーションが更に豊かになり、今まで以上にやり取りすることの楽しさを味わうことができる。また、ALTへのおすすめランキングを作成するという場面設定により、目的意識や相手意識をもって工夫しながら伝え合う思考力、判断力、表現力等を高めることができる。と考える。

以上のことから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	ALTへのおすすめランキングを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	
評価 規 準	(1) 給食やスポーツ、果物など身の回りのものについて、“What ~ do you like?”や“I like ~.”を用いて、あるカテゴリーの内から何が好きかを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。（知識・技能） (2) ALTへのおすすめランキングを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、給食やスポーツ、果物など身の回りのものについて、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合っている。（思考・判断・表現） (3) ALTへのおすすめランキングを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、給食やスポーツ、果物など身の回りのものについて、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・身の回りのものの言い方を知るとともに、日本語と英語の音声の違いに気付く。
追究する	第2時	・身の回りのものの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
	第3時	・何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。
まとめる	第4時	・相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりして、ALTへのおすすめランキングを作る。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全4時間計画の第4時に当たる。ALTへのおすすめランキングを作るためのインタビュー活動を通して、相手に伝わるように工夫しながら何が好きかを尋ねたり答えたりできるようにすることを目標とした。

手立て1 What's this in English? クイズ

児童にとって身近でかつ季節のものである「栗 (chestnut)」を取り上げる。難易度としてはかなり高い出題のため、児童の“Hint, please.”の声に応じていくつかのヒントを与える。それらを基に、既知の英語を使ったり栗の見た目や特徴から答えを推測したりできるようにする。

手立て2 Enjoy Speaking Time (EST)

本時では、手立て1とのつながりも意識して、栗からデザートของมอนブランを紹介し、好きかどうかをALTと児童とでやり取りする。そして、好きではないと答えた児童に対して“What

dessert do you like?”という表現を用いて好きなデザートを探し、その後全体で伝え合う活動を行う。相手の答えに対して、相づちをうったり相手の答えを繰り返したりするなど、相手に伝わるような工夫も常に意識させることで、相手意識をもったコミュニケーションを図る素地を養うことができるようにする。

4 授業の実際

(1) What's this in English? クイズ (クイズ)

まず、クイズへの意欲を高めるために、これまでに出题されてきた三つのクイズ (“rice cooker”、“pencil”、“pencil case”) に答えさせた (図1)。次に本題のクイズである「栗」の写真を見せながら “What's this in English?” と質問した。児童は、口々に「栗!」と日本語で言っていたが、すぐに「形が玉ねぎに似てるから…」 「木になってるから…」 と形などに着目した発言が現れ、最初の答えは “tree onion” であった。チャレンジする姿勢を認め褒めながら、“Hint, please.” の声が出た段階で、“○○nuts” というヒントを与えた。すると、多くの児童から次々と “yellow nuts”、“brown nuts”、“tree nuts”、“sugar nuts”、“needle nuts” といった栗の様々な特徴を捉え、既知の英語を用いた予想が出された (図2)。答えの発表の際は、教室が水を打ったように静まり返った。“The answer is chestnuts!” の発表に、「何で chest?」というつぶやきが多く聞こえた。出题されたクイズは、児童が絵や写真を持参しており、壁面掲示のビンゴシートに掲示する (図3)。教師の “What number do you want?” という問いに対し、“sixteen!” “twenty three!” など英語による返事を自然にできる児童が増えてきている。



図1 ウォームアップの様子



図2 次々に答える児童の様子

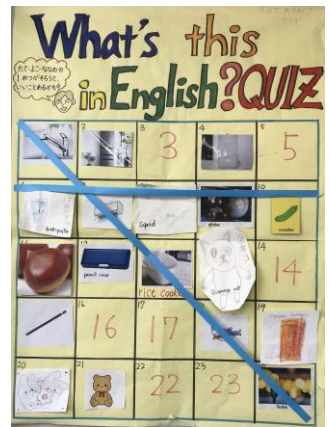


図3 ビンゴシート

(2) Enjoy Speaking Time (EST)

Enjoy Speaking Time (以下、EST) のテーマとして、What's this in English?クイズで出题した「栗 (chestnuts)」に関連するデザートของモンブランを取り上げ、教師とALTとのやり取りを聞かせた (図4)。次に、教師対児童のやり取りを何度も繰り返しながら、好きなデザートを探し合うやり取りであることを理解させ (図5)、使用する表現に十分慣れ親しませてから、児童同士のやり取りを始めた。児童は友達の好きなデザートを知りたい、自分の好きなデザートを伝えたい、という気持ちを持ち、意欲的にやり取りを行っていた (図6)。外国語活動の学習が始まった当初は、英語によるやり取りになかなか積極的に取り組めなかった児童も、生き生きとした様子

T : I like chestnuts very much!
Do you like chestnuts?
ALT: Yes, I do. So, I like Mont Blanc.
T : Oh, you like Mont Blanc.
But I don't like Mont Blanc.
ALT: Really? What dessert do you like?
T : I like strawberry sponge cake.
Alt: Oh! You like strawberry sponge cake. Me, too. It's yummy.

図4 ALTとのやり取り

で相づちをうったり相手の答えを繰り返したりするなどしてコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。ESTでは、「全員とコミュニケーションをとること」を目標の一つとしており、やり取りをすでに行った友達を一目で確認できる名簿付きのESTシートを活用している (図7)。ESTの時間は3分程度と短く設定しており、実際にやり取りできる人数は5～6名程度であるため、

ESTシートを確認しながら「次は〇〇さんと話そう」というように、相手意識をもつための一助となっている。単元終末の言語活動では、友達の好きなもの（お菓子や飲み物、アニメなど）を尋ね合い、ALTへのおすすめランキングを作成することを通して、ESTで十分慣れ親しんだ表現を用い、自信をもってインタビュー活動に取り組んでいた。



図5 教師-児童のやり取り



図6 児童-児童のやり取り

図7 ESTシート

5 考察

(1) What's this in English?クイズ

単元終了後のアンケートでは、「What's this in English?クイズは、身の回りのものを英語で考えてみようと思うきっかけになっているか」の問いに、約94%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した。また、「もっとたくさんの英語の言葉を知りたくなったか」の問いには、約85%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した。自由記述では「日本語と英語には似ているところや全然違うところがあっておもしろい」、「自分の知っている言葉を使ってたくさん考えられた」というような前向きな言葉が多く見られた。以上のことから、クイズによって児童の「英語でなんて言うのかな」「もっと知りたい、言いたい」という英語の表現への興味・関心が高まり、言葉の豊かさに気付くことにつながっていることが分かった。

また、教師からのヒントを基に、既知の語彙を用いたり想像力を働かせたりするなどして粘り強く英語での言い方を考えようとする態度を養うことが、将来、自分の言いたいことを知っている知識や表現を駆使して伝えようとするパラフレーズの力につながるものと考えられる。

(2) Enjoy Speaking Time (EST)

教師とALTの簡単なやり取りを聞き、友達とのコミュニケーションを通して英語でやり取りをする、というサイクルをコンパクトにパッケージングすることで、児童は学んだ表現に慣れ親しむことができ、負担感を感じることなく相手意識をもってコミュニケーションをとることの楽しさに気付くことができていた。児童の振り返りには、「たくさんの英語が話せて、うまくなれて嬉しかった」「みんなの好きなものが英語で聞けて楽しかった」「もっといろいろな英語を使って話したい」などと記述されており、ESTが「気軽に」「楽しく」英語でコミュニケーションをとろうとする態度の育成に有効であったと考える。